

1990年代の大学情報入試の動きについて

中山 泰一^{1,a)}

概要：1993年5月の産業構造審議会情報産業部会情報化人材対策小委員会の最終報告は、大学入試科目の一つとして情報の科目を追加することを求めている。また、大学入試センターは、1994年6月に職業教育を主とする高等学校の生徒に向けて「情報関係基礎」を出題することを公表し、1997年度の大学入試センター試験から実施している。本稿では、1990年代の大学情報入試の動きについて述べる。

キーワード：大学入試センター試験、大学入学共通テスト、情報関係基礎

Introducing the Subject of Informatics into University Entrance Examinations in the 1990s

YASUICHI NAKAYAMA^{1,a)}

Abstract: The report of industrial structure council in May 1993 required the addition of subject of Informatics as one of the university entrance examination subjects. In addition, the national center of university entrance examinations announced that “Basics on Information Processing” would be employed for students at high schools that mainly focus on vocational education, and this has been implemented since 1997. In this paper, we discuss introducing the subject of Informatics into university entrance examinations in the 1990s.

Keywords: National Center Test for University Admissions, Common Test for University Admissions, Basics on Information Processing

1. はじめに

2022年度から高等学校で実施されている学習指導要領では、情報科は、情報の科学的な理解に重点を置き、「情報I」を必修科目とした上で、その発展的内容を扱う「情報II」を選択科目として設置している。また、2025年の大学入学共通テストから、情報を出題教科として、「情報I」をその科目とすることとなった[1]。個別入試においても、新たに情報の科目を出題することを公表する大学が現れている[2][3][4]。大学情報入試が注目されている状況である。

筆者のこれまでの大学情報入試に関する著述、たとえば、文献[5]では、「高等学校情報科と情報入試のながれ」として、表1に示す事項を述べている。すなわち、いまから約30年前の1997年に大学入試センター試験で「情報関

係基礎」の出題が始まったことを、最初の事項として述べている。

大学入試センター試験の「情報関係基礎」は、職業教育を主とする高等学校の生徒に向けた科目である。その内容は、文献[6]、[7]、[8]などで詳しく説明されている。

「情報関係基礎」が始まった1997年は、普通科の高等学校に情報科が設置される前であった。その前年の1996年に、教育工学関連学協会連合情報教育プロジェクト委員会ワーキンググループによる、小・中・高一貫情報教育実現のための提案「学習指導要領」文案[9]が公表されており、情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議などの議論を経て、1999年に告示された学習指導要領により、2003年度から普通科の高等学校に情報科が設置されることになる*1。

¹ 電気通信大学
The University of Electro-Communications
^{a)} nakayama@uec.ac.jp

*1 普通科の高等学校に情報科が設置される頃の経緯、学会等がどのようにかかわって来たのかは、文献[10]、[11]、[12]などで述べられている。

表 1 文献 [5] で述べられている大学情報入試に関する事項

1997年	大学入試センターで情報関係基礎の出題が始まる。
2003年	高等学校に情報科が設置される。「情報 A」、「情報 B」、「情報 C」の選択必修。
2006年	大学の個別学力試験において情報入試が始まる。
2012年	情報入試研究会が発足する。
2013年	高等学校学習指導要領が改訂される。情報科は「情報の科学」、「社会と情報」の選択必修。数学、物理から情報の内容が消える。
2013年	情報処理学会情報処理教育委員会の下に情報入試ワーキンググループが設置される。2016年まで4回、模擬試験を実施する。
2013年	世界最先端 IT 国家創造宣言が閣議決定され、小学校でプログラミング教育の必要性が示される。
2016年	慶應義塾大学 (SFC) が情報入試を始める。
2020年	小学校でプログラミングが始まる。
2021年	大学入学共通テストが始まる。
2022年	高等学校学習指導要領が改訂される。情報科は「情報 I」が必修、「情報 II」が選択。
2025年	2022年から実施の学習指導要領に基づく生徒に向けた大学入試が実施される。

このように、普通科の高等学校に情報科が設置されるための議論が始まるより前の、1994年度の時点で、職業教育を主とする高等学校には情報に関する科目が設置されていた。すなわち、3章で述べるように、1994年度から、家庭科に「家庭情報処理」、農業科に「農業情報処理」、工業科に「情報技術基礎」、商業科に「情報処理」、水産科に「水産情報処理」、看護科に「看護情報処理」が設置されていた。

それでは、1990年代に、大学情報入試に関連して、どのような動きがあったのであろうか。

どのようにして、職業教育を主とする高等学校の生徒に向けて大学入試センター試験の科目「情報関係基礎」が出題されるようになったのであろうか。

また、表 1 に、2006年に個別入試への情報の科目の出題が始まったと記されているが、それは本当であろうか。

本稿は、これらの疑問について、文献等による調査した結果を報告するものである。まず、1980年代に職業教育を主とする高等学校の生徒に向けた大学入試科目を設置するための議論がされたことについて述べる。つづいて、その議論を土台にして1990年代に「情報」の大学入試科目が設置されたことについて述べる。また、1990年代に個別入試への「情報」の出題がされていたことについても述べる。

2. 大学入試センター試験への「工業数理」および「簿記会計 I・II」の出題

1980年代に職業教育を主とする高等学校の生徒に向けた大学入試科目を設置するための議論がされている (表 2)。

1982年に国立大学協会は、昭和 60 年度以降の共通第 1 次学力試験における高校「職業科」にかかる出題科目について案 [13] において、職業教育を主とする高等学校の生徒

表 2 職業教育を主とする高等学校の生徒に向けた大学入試科目のなごれ

1982年	国立大学協会 昭和 60 年度以降の共通第 1 次学力試験における高校「職業科」にかかる出題科目について案
1983年	文部省「文大大第 235 号」大学入学者選抜実施要項について
1985年	共通第 1 次学力試験の科目に職業教育を主とする高等学校の生徒に向けて「工業数理」と「簿記会計 I・II」が出題される。
1990年	大学入試センター試験が始まる。

1985年度	1997年度	2006年度	2016年度	2024年度
工業数理		工業数理基礎		
簿記会計 I・II	簿記	簿記・会計		
		情報関係基礎		

図 1 職業教育を主とする高等学校の生徒に向けた大学入試センター試験の科目の設置の状況 (1985 年度～1989 年度は共通第 1 次学力試験, 2021 年度～2024 年度は大学入学共通テスト)

に向けて「工業数理」と「簿記会計 I・II」を出題することを示し、会員校の意見を求めている。国立大学協会の案のとおり、文部省と大学入試センターは 1985 年度からの共通第 1 次学力試験の科目に「工業数理」と「簿記会計 I・II」を出題すること決定し [14][15][16]、これらの科目は 1990 年度に大学入試センター試験に移行してからも出題された (図 1)。

一方、国立大学協会の案に対して、全国高等学校長協会は 1982 年 2 月 5 日付で、共通第 1 次学力試験の科目に「工業数理」、「簿記会計」に加えて、「商業経済」(商業科)、「栽培環境」(農業科)、「食物」(家庭科)、「看護基礎医学」(看護科)を追加することを求めている [17]。つまり、高等学校の側では、さらなる職業科の生徒の進学に対する配慮を求めている*2。

このことについて、国立大学協会 [13] は、共通第 1 次学力試験における「職業科」に関する出題科目及びその試験方法については、当面、この実施案で発足させるのが現実的であり、その後の出題科目やその措置等については、実施状況等を見て、さらに検討を進めていくことが必要であると考え、

との判断をしている。

このように、1990 年の時点で、大学入試センター試験の科目として「工業数理」と「簿記会計 I・II」が出題されているが、職業教育を主とする高等学校の生徒に向けた大学入試センター試験の科目を増やすことが課題になっていたと考えられる。

*2 文献 [18] には、「職業科の生徒の進学に対する配慮は、戦前も行われていた。たとえば、高等商業の入試に中学卒業生は数学で受験するのに対し、商業卒業生は「簿記」で受験していた。」との記述がある。

表 3 臨時教育審議会と「情報化への対応」

1985年 臨時教育審議会第一次答申	教育改革の基本方向の1つとして「情報化への対応」
1987年 教育課程審議会の答申	「社会の情報化に主体的に対応できる基礎的な資質を養う観点から、情報の理解、選択、処理、創造などに必要な能力及びコンピュータ等の情報手段を活用する能力と態度の育成が図られるよう配慮する。なお、その際、情報化のもたらす様々な影響についても配慮する」
1989年 学習指導要領の告示。	中学校・高等学校の「数学」、「理科」でコンピュータに関する基礎的な内容を取り入れる。 中学校の「技術・家庭」で新たな選択領域として「情報基礎」を設ける。 1994年度から高等学校の専門教育に関する教科である「家庭」「農業」「工業」「商業」「水産」及び「看護」の6教科に情報に関する科目が設置される。

3. 臨時教育審議会による教育改革

1980年代に、中曽根内閣により臨時教育審議会が設置された。臨時教育審議会では教育改革の基本方向として、「国際化への対応」と「情報化への対応」が求められることとなった[19]。

これにより、1994年度から高等学校の専門教育に関する教科である「家庭」「農業」「工業」「商業」「水産」及び「看護」の6教科に情報に関する科目が設置されている(表3)。

臨時教育審議会による教育改革で「情報化への対応」が求められたことは、次章で述べる、産業構造審議会情報産業部会産業構造審議会情報産業部会情報化人材対策小委員会の議論にもかかわっていると考えられる。

4. 産業構造審議会情報産業部会情報化人材対策小委員会の最終報告

産業構造審議会は、通商産業省(現在、経済産業省)が所管する審議会である。1993年5月に、産業構造審議会情報産業部会情報化人材対策小委員会最終報告が公表されている。報告書は国立国会図書館東京本館議会官庁資料室で閲覧できる。(通産省公報[20]にも全文が掲載されている。以下、文献[20]の抜粋。)

情報科目の設置

欧米等の教育カリキュラムの現状も踏まえ、我が国においても、初等・中等教育段階で、情報教育を専門に行う科目を設けるとともに、高校及び大学入試科目の一つとして加えていくことを検討すべきである。

初等・中等教育に情報の科目を設置するだけでなく、高校と大学の入試科目の一つとして情報の科目を追加することを求めている(筆者が現時点で知る限り、国の審議会で、

平成9年度からの大学入試センター試験の出題教科・科目に関する基本的方針

平成9年度からの大学入試センター試験の出題は、「国語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」、「理科」及び「外国語」の6教科について行い、それぞれの教科についての必修科目、及びそれぞれの選択科目中から適当な科目を出題する。また、「職業教育を主とする学科」における履修科目の出題についても考慮するものとする。

(説明)

- (1) 従来の「社会」を発展的に分離して設置された「地理歴史」と「公民」については、その設置の趣旨に鑑みて、これら2教科を出題の対象とする。
- (2) 新教育課程において「家庭」は、男子・女子生徒の全員について必修の教科と位置付けられた。しかし、この教科の学習内容は「体験的」要素が多く、この意味では、「実技的」要素が多い必修の教科である「保健体育」、「芸術」と類似する面があり、この観点から出題の対象としないこととする。
- (3) 各教科における選択科目は多様となっているので、これらへの対応の検討が必要であるが、各選択科目の設置の趣旨並びに教育課程の設定状況及び予想される履修状況を勘案して、出題の対象とする科目を決定する必要があるという趣旨を「選択科目中から適当な科目」と表現してある。
- (4) 「職業教育を主とする学科」における履修科目の出題については、従来どおりの趣旨を継続的に配慮する観点から、附記するものである。

図 2 平成9年度からの大学入試センター試験の出題教科・科目に関する基本的方針(文献[22]からの抜粋)

入試への情報の科目の出題に言及しているのは、これが最初である。

1994年の情報化白書[21]においても、初等・中等教育への情報の科目の設置と入試科目への情報の科目の追加が記載されている。

5. 大学入試センター試験への「情報関係基礎」の出題

大学入試センターでは1994年度から高等学校で実施される学習指導要領に対応した出題科目を1992年から検討を始めている。まず、1992年6月16日に、平成9年度からの大学入試センター試験の出題教科・科目に関する基本的方針を公表している。この基本的方針では、「職業教育を主とする学科」における履修科目の出題については、従来どおりの趣旨を継続的に配慮する観点から、附記するものであるとの説明がされている(図2)。

そして、翌年1993年6月の平成9年度からの大学入試センター試験の出題教科・科目等について(中間まとめ)では「情報関係基礎」の出題が明記されている[22]。

国立大学協会が会員校に中間まとめに対する意見[23]を求める手続きをした上で、1994年6月15日に大学入試センターが「平成9年度からの大学入試センター試験の出題教科・科目等について」(最終まとめ)[24]を公表している。

このようにして、1997年度から、職業教育を主とする学

職業教育を主とする学科等における専門教育に関する科目

「工業数理」「簿記」及び『情報関係基礎』を、数学のグループ②の「数学 II」及び『数学 II・数学 B』と並置出題し、選択解答の対象とする。

(説明)

職業教育を主とする学科等における専門教育に関する科目の出題について、現行のセンター試験では、「工業数理」、「簿記会計 I」・「簿記会計 II」の 2 科目を「数学 II」と並べた選択科目として取り扱ってきたことから、「工業数理」及び「簿記」を数学のグループ②における選択科目として並置出題する。

また、新指導要領においては、社会の進展とその情報化への対応が特に重視され、専門教育に関する教科である「家庭」「農業」「工業」「商業」「水産」及び「看護」の 6 教科において、いずれも情報に関する科目が設置されており、これらは、原則として履修させること、あるいは努めて履修させることが望ましいとされている。さらに、新設された総合学科においても「情報に関する基礎的科目」が原則として履修させる科目として設定されていること等から考えて、これらに共通する内容の『情報関係基礎』を新たに数学のグループ②における選択科目として並置出題する。

(参考) 情報に関する科目

家庭科：「家庭情報処理」
 農業科：「農業情報処理」
 工業科：「情報技術基礎」
 商業科：「情報処理」
 水産科：「水産情報処理」
 看護科：「看護情報処理」

図 3 1997 年度からの職業教育を主とする高等学校の生徒に向けた大学入試センター試験の科目 (文献 [24] からの抜粋)

科等における専門教育に関する新しい科目、すなわち、「家庭」「農業」「工業」「商業」「水産」及び「看護」の教科における情報に関する科目に対応した大学入試センター試験科目「情報関係基礎」が出題されることが決められた (図 3)。

6. 個別入試への「情報」の出題

上述の「平成 9 年度からの大学入試センター試験の出題教科・科目等について」(最終まとめ) [24] と同日の 1994 年 6 月 15 日に、文部省高等教育局長通知 [25] が発出されている。

この通知では、各大学が実施する個別試験について、「商学、工学、農学、水産学、家政学、看護学等に関する大学・学部で、その目的、特色、専門分野等の特性からみて適当と認められる場合には、前記二に掲げる教科(筆者注：国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語の 6 教科)の一部に代えて、職業に関する教科を出題し、又は地理歴史、公民、数学若しくは理科の科目に職業に関する基礎的・基本的科目を加え、選択解答させることが望ましい。」と定められている。

この通知を受け、弘前大学理工学部電子情報システム工学科では、1997 年度から 2001 年度まで「情報技術基礎」

を出題している。また、同じ時期に、明星大学においても「情報処理」を出題している [26], [27], [28]。

つまり、1990 年代にも、個別入試への「情報」の出題はされていたことがわかる。

7. おわりに

本稿では、1980 年代に職業教育を主とする高等学校の生徒に向けた大学入試科目を設置するための議論がされたことについて述べ、その議論を土台にして 1990 年代に「情報」の大学入試科目が設置されたことについて述べた。

1990 年代は、インターネットの利用がすすんだ時代でもある。しかし、インターネット利用が始まったばかりで、現在とちがひ、ウェブサイト上への文書の掲載がほとんどされていない。本稿で報告した調査結果の多くは、筆者が国立国会図書館の文献を検索し、閲覧し、謄写して得たものである。ほかにも調査できてない文献もあると思われる。また、たった 30 年前のことであっても、人伝てによる調査が難しいと、今回、筆者は学ぶこととなった。

文献 [5] で述べたが、2016 年度の大学入試センター試験の出題教科・科目等の検討に際して、いくつかの科目の廃止が議論され、「情報関係基礎」もその議論の対象とされた。しかし、情報処理学会と私立大学情報教育協会からの意見書が出されたこともあり存続が決まり、2024 年度まで「情報関係基礎」の出題は続けられた。28 年間「情報関係基礎」の出題がされてきた意義は大きいと考える。今後に総括の議論がされることが期待される。

謝辞 本稿の執筆にあたり、多くの方々から情報や資料を提供していただきました。感謝いたします。

参考文献

- [1] 角田 博保: 大学情報入試の概要, 情報処理, Vol. 65, No. 2, pp. e1-e5 (2024).
- [2] 小宮 常康: 国公立大学における情報入試, 情報処理, Vol. 65, No. 2, pp. e6-e9 (2024).
- [3] 谷 聖一: 私立大学における情報入試, 情報処理, Vol. 65, No. 2, pp. e10-e13 (2024).
- [4] 赤澤 紀子, 小宮 常康, 井上 智生, 安田 豊, 谷 聖一, 植原 啓介, 角田 博保, 中山 泰一: 個別入試への「情報」の出題, 令和 6 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第 19 回) 自主企画セッション (2024).
- [5] 筧 捷彦, 中山 泰一: 情報入試のすゝめ, 情報処理, Vol. 59, No. 7, pp. 632-635 (2018).
- [6] 竹内 郁雄: 出題ノート 22 (情報), 大学入試フォーラム, No.24, pp.56-61 (2001).
- [7] 中野 由章, 中山 泰一, 筧 捷彦, 萩谷 昌己, 久野 靖, 角田 博保, 辰己 丈夫: 大学入試センター試験「情報関係基礎」の問題分類と高等学校共通教科情報科との対応, 情報教育シンポジウム SSS2021 論文集, pp. 100-105 (2021).
- [8] 情報処理学会 2021 年 6 月 15 日付プレスリリース: 大学入試センター試験/大学入学共通テスト「情報関係基礎」のアーカイブを公開, <https://www.dreamnews.jp/press/0000238395/> (2024 年 7 月 25 日閲覧)
- [9] 学習研究社: NEW 教育とコンピュータ, Vol.12, No.8 別冊特別 (1996).

- [10] 田中 規久雄: 教科「情報」新設に見る情報教育政策の一断面, 神戸大学大学院教育学研究会「研究論叢」, No.6, pp.11-20 (1999).
- [11] 岡本 敏雄: 高校普通科新教科「情報」の設置とその意味—数学教育から期待されるもの—, 日本数学教育学会誌, Vol.83, No.3, pp.39-48 (2001).
- [12] 大岩 元: 高校における新教科「情報」ができたころのこと, 情報処理, Vol.61, No.3, pp.283-286, (2020).
- [13] 国立大学協会 1982年3月29日付: 昭和60年度以降の共通第1次学力試験における高校「職業科」にかかる出題科目について案, <https://www.janu.jp/wp/wp-content/uploads/2024/01/8d4ef1d66d16cfd582dd3cc0e51b18bf.pdf> (1982). (2024年7月25日閲覧)
- [14] 文部省 1983年1月18日付「文大大第235号」: 大学入学者選抜実施要項について (1983).
- [15] 昭和60年度以降の共通1次試験, 大学入試フォーラム, No. 1, pp. 28-31 (1983).
- [16] 昭和60年度共通第1次学力試験の出題教科・科目等の出題方法等—旧教育課程履修者(既卒者)に対する措置—, 大学入試フォーラム, No. 2, pp. 19-22 (1983).
- [17] 全国高等学校長協会: 全国高等学校長協会四十年史〔2〕年表・資料編 (1987).
- [18] 児玉 邦二: 再来年の共通一次, 放送教育, Vol.37, No.10, p.58 (1983).
- [19] 文部省: 学制百二十年史, ぎょうせい (1992).
- [20] 通産省公報 1993年5月14日付: 産業構造審議会情報産業部会情報化人材対策小委員会最終報告 (1993).
- [21] 情報化白書 1994: 豊かな情報化社会の実現に向かって-新しい情報化人材への期待- (1994).
- [22] 平成9年度からの大学入試センター試験の出題教科・科目等について—中間まとめ—. 大学入試フォーラム, No.17, pp.125-132 (1994).
- [23] 国立大学協会 1993年11月: 「平成9年度からの入試センター試験の出題教科科目について—中間まとめ—」に対する調査結果, https://www.janu.jp/wp/wp-content/uploads/2021/08/199311_daigakunyushi_center.pdf (1993). (2024年7月25日閲覧)
- [24] 橋本 克久: 「平成9年度からの大学入試センター試験の出題教科・科目等について」(最終まとめ)に関する解説, 大学入試フォーラム, No. 18, pp. 161-177 (1995).
- [25] 文部省 1994年6月15日付「文高大第150号」: 高等学校学習指導要領の改訂に伴う平成九年度以後の学力検査について (1994).
- [26] 明星大学: 情報学部・日本文化学部(青梅校舎) 平成10年度一般入学試験概要(アーカイブ), <https://web.archive.org/web/19980117021908/www.meisei-u.ac.jp/nyushi/gakumu06.html> (2024年7月25日閲覧)
- [27] 明星大学: 情報学部・日本文化学部(青梅校舎) 平成11年度一般入学試験概要(アーカイブ), <https://web.archive.org/web/19991023021759/www.meisei-u.ac.jp/nyushi/gakumu06.html> (2024年7月25日閲覧)
- [28] 明星大学: 情報学部・日本文化学部(青梅校舎) 平成13年度一般入学試験概要(アーカイブ), <https://web.archive.org/web/20010429075731/www.ome.meisei-u.ac.jp/nyushi/gakumu06.html> (2024年7月25日閲覧)